

特集 No.1

「都心を歩く」 変わりゆく栄

加藤 秀弥

変わりゆく栄を探して

二〇二七年、リニア中央新幹線の開業が計画されるなか、栄地区のまちづくりの基本方針として、名古屋市は「栄地区グランドビジョン」を公表している。同ビジョンでは、栄を四つのエリアに区分している。錦・丸の内エリア、東桜・泉エリア、栄三丁目エリア、栄四丁目・五丁目エリアである。この四つのエリアは、東西に延びる広小路通・錦通と、南北に延びる大津通・久屋大通の交差点を中心として区分される。それぞれ特徴を持ったエリアであるが、リニア開通に向けて大小問わず変化が起ころのだろうか、今回は、そんな変わりゆく栄を確かめるため、広小路通・錦通・大津通・久屋大通を歩いてみることにした。

広小路通を歩いて【歴史】

言わずと知れた名古屋のメインストリート広小路通。拠点を置く中日ドラゴンズが優勝パレードを開催する通である。まず歩くと気が付くのは、広い道幅である。この広い道幅は一六六〇年まで遡る。万治の大火を発端に当時約五メートルの道幅が約二十七メートルに拡張された。それに際して「広小路」と呼ばれるようになったとされる。当時の由来通り現在まで続いている道を歩くと感慨深いものがある。

一方で、変化があった場所もある。旧丸善名古屋ビルが取り壊され、駐車場となっていた。隣接する明治屋についても同様だ。建物は残っているが



広小路通の交差点

板から屋号が消えている。二〇一四年に七十六年の歴史に幕を下ろした。

大津通から錦通へ【ランドマーク】

次に大津通から錦通に向かつて歩く。先ほどの広小路通とは、通行人の層が変わったように見受けられる。大津通と錦通の交差点、ドン・キホーテとサンシャインサカエの観覧車がランドマークとなっている。昼は若者向けのテナントや飲食店に人が集まり、夜は居酒屋帰りの大学生やサラリーマンで更に賑わう。ドン・キホーテは二〇一四年、サンシャインサカエは二〇〇五年オープンであり、この地区の顔となってまだ日は浅い。

次に、錦通を東に進むと、特徴的な構造をした建築物が目に入る。オアシス21だ。公共施設と商業施設との大型複合施設として二〇〇二年にオープンした。夜になるとライトアップが施され、「インスタ映え」するため、若者や外国人観光客が写真を撮る姿が散見される。錦通からはテレビ塔を



大津通・錦通の交差点



オアシス 21

の密集地であり、今後も名古屋の観光拠点として活躍が期待される。

久屋大通【中日ビル】

最後に、オアシス21から久屋大通を南下する。広小路通との交差点に佇む古くからランドマークとして認知される中日ビルが今年閉館する。老朽化や耐震の問題から建替えられ、高層ビル化が行われるとのことだ。

おわりに

栄の風貌は大なり小なり変化していることがわかった。見慣れた景観が変化していくことは楽しいがガラリと変わることに聊かの寂しを感じる。



広小路通・久屋大通から臨む中日ビル